

もちろん「今」でしょ！？——副詞の意味的重要性

英語では副詞(adverb)は文法上(すなわち、文の構成上)必須の要素でないことが多いため、副詞はいかにも「文のオマケ」のように捉えられるかもしれませんが、しかし意味の面から見ると、副詞は文が伝える意味情報の核心に関わる場合が多く、発音する際も通常強勢(stress)が置かれます。以下ではいくつかの副詞について、「その副詞が有るのと無いのではどう違うのか」を見ていきます。

英語の副詞は種々のカテゴリーに分類されますが、その一つとして文の内容の成立・不成立との関係で問題にされるものがあります。次の例を参照：

- (1) He nearly caught the last train. (2) He nearly missed the last train. (久野・高見 2015: 47)

(1)(2)は副詞 *nearly* がポイントで、意味はそれぞれ「彼はもう少しで終電に間に合うところだった」「彼はもう少しで終電に乗り遅れるところだった」ということです。ここでもし *nearly* がなかったら、それぞれ「彼は終電に間に合った」「彼は終電に乗り遅れた」となります。すなわち、副詞 *nearly* はこれらの場合それを除いた部分の内容が実際には成立しなかったことを表すことになり、その有無によって文全体の意味が大きく違ってくることになります。これは次の *almost* も同じです：

- (3) I almost failed the exam. (CALD³) (もう少しで試験に落ちるところだった (——幸い落ちなかった))

- (4) Snow Hill, a town in Greene County, North Carolina, almost became the capital of the state.

(cf. “Snow Hill,” *Wikipedia*) (ノースカロライナ州グリーン郡の町スノウヒルは、もう少しでノースカロライナ州の州都になるところだった (——だが残念ながら州都にはならなかった))

nearly, *almost* はこのように、それを除くと文が表す内容が成立しなくなることを表します(ただし、下の注を参照)。これに対して、次の文の副詞 *narrowly* はどうでしょうか：

- (5) He narrowly caught the last train. (6) He narrowly missed the last train. (久野・高見 2015: 46)

(5)(6)はそれぞれ「彼はタッチの差で終電に間に合った」「彼はタッチの差で終電に乗り遅れた」ということで、この場合はもし *narrowly* がなくても文の内容は成立することになります。これは上の *nearly*, *almost* の場合とは異なります。次の *barely* もこの点は *narrowly* と同じです：

- (7) The music was barely audible. (OALD⁹) (その音楽はかろうじて[やっと]聞こえるぐらいの音量であった)

- (8) She was barely able to stand. (OALD⁹) (彼女はかろうじて[やっと、どうにか]立つことができるという状態だった)

(5)-(8)からわかるように、*narrowly* や *barely* の場合、それを除いても文が表す内容自体は成立しますが、これらはそれが不成立となる場合と比べたとき、その可能性の差が小さいという重要な意味情報を伝えるものです。その意味で、これらの語の有無は文全体の意味に大きく影響すると言えます。

上では文の内容の成立・不成立に関係する四つの副詞について考えましたが、今度はそれとは別のカテゴリーの副詞 *now* について見ておきます。まず、次の例を参照：

- (9) Now on sale / Now with CD-ROM (10) I'm now ready to answer your questions. (OALD⁹)

- (11) All scientists now believe that the universe (time, space, and matter) came from nothing.

(*The Telegraph*, 14 March 2013)

これらの例における副詞 *now* はどのような意味を表しているのでしょうか？「*now* だからもちろん『今』でしょ！」と言うかもしれませんが、Huddleston and Pullum (2002: 1558) はこのような *now* の用法について “The use of *now* often involves a contrast between the present and the past or future (now は現在と過去または未来との対照を含んでいることが多い)” と説明しています。(9)-(11)の場合は過去と現在との対照を表して、「過去の状況が変化して、現在の状態になったこと」を示していると考えられます。すなわち(9)は日本語では「新発売／(今まで冊子体だけだったものが) CD-ROM 付きになりました」、(10)は「あなたの質問に答える準備[用意]ができました」、(11)は「科学者は皆、(昔と違って)今では宇宙は無から生まれたと信じるようになっていく」ということです。次の *now* も同様に考えられます：

- (12) “Not everyone who experiences sleep problems should now worry about developing dementia due to Alzheimer’s disease,” she said, ... (*CNN*, August 23, 2017)

これは睡眠不足が認知症の原因になるかもしれないという話の中で、だからといって睡眠不足の人が皆「これは大変なことになったぞ」と(急に)心配することはない、と述べているものです。副詞 *now* は心が平静から動揺に変わることを、あわてて心配し出すことを表しており、この場合もしこの語がなかったらそのような心の変化を迫真的に表すことはできません。たった副詞一語ですが、意味情報の伝達において果たす役割は小さくないと言えるでしょう。

注 このことは *nearly*, *almost* が否定の副詞であることは意味しない。久野・高見 (2015) 第3章を参照のこと。

参考文献 久野暁・高見健一『謎解きの英文法 副詞と数量詞』(くろしお出版、2015年)

Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum, *The Cambridge Grammar of the English Language*. (Cambridge University Press, 2002)